

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/6)

学部・学科	臨床心理学部・臨床心理学科	職名	教授	氏名	森 谷 寛 之
学歴	昭和45年 3月 京都大学工学部高分子化学科 卒業 昭和47年 3月 京都大学大学院工学研究科 (修士課程) 高分子化学専攻 修了 昭和50年 3月 京都大学大学院教育学研究科 (修士課程) 教育方法学専攻 修了 昭和53年 3月 京都大学大学院教育学研究科 (博士課程) 教育方法学専攻 単位取得満期退学				
学位	昭和47年 3月 工学修士 (京都大学) 昭和50年 3月 教育学修士 (京都大学) 昭和63年 7月 教育学博士 (京都大学 論教博第41号)				
専門分野	臨床心理学				
専門資格	臨床心理士 (0523号) 芸術療法士 (日本芸術療法学会 登録番号000011) 産業精神保健専門職 (2003年6月)				
所属学会	昭和48年 4月 日本教育心理学会 昭和56年 4月 日本心理学会 平成57年 4月 日本心理臨床学会 昭和58年 4月 日本学生相談学会 昭和62年 7月 日本箱庭療法学会 昭和63年 4月 日本芸術療法学会 平成 3年 4月 日本精神分析学会 平成 3年 9月 日本描画テスト・描画療法学会 平成 5年 4月 鳴門生徒指導学会 平成 5年 9月 日本行動医学会「平24.3まで」 平成 5年11月 日本産業精神保健学会 平成 8年 2月 日本内観学会 平成13年12月 日本遊戯療法学会 平成21年 8月 日本コラージュ療法学会 平成24年10月 日本理論心理学会				
受賞	昭和53年 9月 日本教育心理学会城戸奨励賞 平成18年 9月 日本芸術療法学会賞				
担当 授業科目	学 部 初年次演習、臨床心理学基礎演習 (対人社会コース)、臨床心理学演習 (対人社会コース)、 臨床心理学実践演習 (箱庭療法4)、臨床心理学部研究法演習 ・ 、臨床心理学部総合演習 ・ , 臨床コミュニケーション論、臨床心理学概論、芸術療法 ----- 大学院 臨床心理学特論A、臨床心理学特演 -AB、臨床心理学特演 -AB、心理療法特演 -B、心理療 法特演 -B				
論文指導	論文指導担当 [主査] (卒論 : 6名、修士論文 : 1名) 論文審査担当 [副査] (卒論 : 13名、修士論文 : 6名)				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/6)

	科目名	科目カテゴリ	実施学期	履修者数
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	臨床心理学概論	講義・演習・実習・実験	春・秋	約300名
	授業の概要：臨床心理学がどのように成立したか。基本的な考え方を分かりやすく解説する。			
	教育活動の振り返り： 臨床心理学は何かを人に説明するのがむずかしい科目である。なぜ、むずかしいのかを解説する。 教育活動の成果： 無意識とはどういうものかを学生が理解できるようになった。 今後の課題： 講義に使用しているテキストを更に分かりやすくするために、改訂の準備をしている。			
	・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 学内 第2回FD研修会に参加。平成27年3月5日(木) 13:00~14:30、テーマ：「授業と評価をつなぐ為に ~ループリック評価入門~」、講師：井上史子氏(帝京大学・高等教育開発センター・教授) ・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 京都文教コラージュ療法研究会を主宰した。大学院生は会に参加し、心理臨床実践活動の実際を学ぶ機会を得た。また院生は、研究会の会報準備、参加者への対応を学んだ。			
H26年度 研究課題	1. コラージュ療法の研究 2. 自殺予防についての研究 3. 臨床心理士の国家資格問題の研究 4. 九分割統合絵画法の研究			
平成二十六年(2014)年度の 研究活動の概要	1. コラージュ療法の研究 コラージュ療法学会理事長として年次大会を開催した。研修会の講師を勤めた。京都文教コラージュ療法研究会を主宰し、年間5回の研究会を行った。文献上の間違いを指摘する論文をセンター紀要などに発表した。 2. 自殺予防についての研究 京都府臨床心理士会産業部会長として、京都府自殺対策関連事業の研修会を企画したり、「京都府自殺対策連絡協議会」に参加した。また、京都府の自殺対策の条例に対する意見を述べた。 3. 臨床心理士の国家資格問題の研究 公認心理師法案の提出の動きを受けて、心理臨床学会理事会、推進連絡協議会などでも発言し、また、遊戯療法学会の発行するニュースレターにも資格についての意見を発表した。 4. 九分割統合絵画法の研究 引き続き著書として発行するための準備を行っている。修士論文に本方法が使われているのが複数見られた。それについてのコメントなどを行った。			
平成二十六年(2014)年度の 主な研究成果等	(著書) (論文) 1. 「日本コラージュ療法学会第5回大会基調講演「コラージュ療法の実践と今後の課題」」(講演記録、平成26年10月、演者：森谷寛之・司会：長谷川早苗、日本コラージュ療法学会 コラージュ療法学研究5(1)(pp.69-78) 2. 「アートセラピー研究所ホームページ(2014年11月現在)における不適正な記述の解明倫理勧告後の状況について」、共著、平成27年3月、共著者：服部令子、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第17号(pp.35-56) (学会報告、学会活動) 1. 「コラージュ療法」、単独、平成26年6月、日本臨床心理士会研修会、東京 2. 「カウンセリング場面でのアートセラピーの利用」、単独、平成26年8月、日本カウンセリング学会第47回大会研修会、名古屋大学 3. ワークショップ「コラージュ療法の基本を知る」、単独、平成26年8月、日本コラージュ療法学会第6回大会、愛知学院大学			

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/6)

<p>平成二十六年(2014)年度の主な研究成果等</p>	<p>(学会報告、学会活動 つづき)</p> <p>4. シンポジウム「コラージュ療法の材料について大切なこと」、共同、平成26年8月、他のシンポジスト：中原睦美・今村友木子・山上榮子・加藤大樹、日本コラージュ療法学会第6回大会、愛知学院大学</p> <p>5. 指定討論：西村喜文・津上佳奈美「児童養護施設入所児のコラージュ表現」、平成26年8月、日本コラージュ療法学会第6回大会 愛知学院大学</p> <p>6. 「コラージュ療法」、単独、平成26年11月、日本臨床心理士会研修会、東京</p> <p>7. 「科学史に照らした心理学の位置 近代科学誕生から400年を振り返って」、単独、平成26年11月、徳島箱庭・コラージュ療法研究会、鳴門教育大学</p> <hr/> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>巻頭言：</p> <p>1. 「大詰めを迎えた国家資格」、単著、平成26年12月、日本遊戯療法学会 遊戯療法ニュースレター 第32号 (p.1)</p> <p>その他：</p> <p>1. 日本遊戯療法学会第19回大会公開シンポジウム「遊戯療法家を育てるために」(記録)、平成26年6月、安島智子・伊藤良子・高石浩一(以上シンポジスト)・難波愛・福永友佳子(以上指定討論者)・森谷寛之(司会)、日本遊戯療法学会 遊戯療法学研究13(1) (pp.117-140)</p> <p>2. 追悼「長谷川早苗先生」、単著、平成26年10月、日本コラージュ療法学会 コラージュ療法学研究5(1)(p.97)</p> <hr/> <p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <hr/> <p>(学内活動)</p> <p>学生相談室長、自己点検・評価委員会委員、学生相談室運営委員会委員長、産業メンタルヘルス研究所運営会議委員、研究成果刊行助成委員会委員、海外学術研究助成委員会委員、産学協働教育推進委員会委員</p>
<p>平成二十六年(2014)年度の社会における活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本産業精神保健学会理事「平5.9より」 ・ 京都文教コラージュ療法研究会創設主宰「平13.7より」 ・ 日本芸術療法学会理事「平15.6より」 ・ 日本遊戯療法学会常任理事「平17.7より」 ・ 日本箱庭療法学会理事「平20.3より」 ・ 日本コラージュ療法学会理事長「平20.12より」 ・ 日本心理臨床学会理事「平26.5より」 ・ 京都府臨床心理士会理事「平26.5より」
<p>平成二十一年(2009)～二十五年(2013)年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>1. 「現在の多重債務解決実務 相談のあり方から破綻業者への対応まで」、共著、平成22年11月、全国クレジット・サラ金問題対策協議会編『自殺対策を考えた多重債務者のカウンセリングのあり方』第1章 (pp.6-25)</p> <p>2. 「本当の名前は何だろう?」、共著、平成23年5月、日本評論社、飯森眞喜雄・宮川香織編、こころの科学セレクション：カウンセリングと心理療法 その微妙な関係 (pp.93-103)</p> <p>3. 「科学史における心理学の登場 近代科学誕生から400年」、共著、平成23年8月、丸善出版、日本心理臨床学会編、心理臨床学事典 (pp.4-5)</p> <p>4. 「コラージュ療法」、共著、平成23年8月、丸善出版、日本心理臨床学会編、心理臨床学事典 (pp.72-73)</p> <p>5. 『コラージュ療法実践の手引き その起源からアセスメントまで』、単著、平成24年3月、金剛出版、232p</p> <hr/> <p>(論文)</p> <p>1. 「心理学界のアンブレラ」、単著、平成21年9月、日本遊戯療法学会 遊戯療法学研究第8巻第1号 (pp.86-92)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/6)

(論文 つづき)

2. 「日本コラーージュ療法学会第1回大会 基調講演 コラーージュ療法入門 学会発足にあたって 研究における諸段階 22年のあゆみと将来に向けて」, 単著、平成22年8月、日本コラーージュ療法学会 コラーージュ療法学研究1(1)(pp.81-89)
3. 「心理臨床家の国家資格への歩み 私の30年の歴史を振り返りつつ」, 単著、平成23年6月、日本遊戯療法学会 遊戯療法学研究第10巻第1号 (pp.130-140)
4. シンポジウム「いのち育むものとしてのあそび」, 共著、平成23年6月、共著者：徳田仁子・安島智子・渡辺雄三・山中康裕・妙木浩之、日本遊戯療法学会 遊戯療法学研究第10巻第1号(pp.79-103)
5. 「コラーージュ療法における間違っただ普及の背景について 資料「おおず講演記録(杉浦2000)」を参照にして」, 共著、平成24年3月、共著者：服部令子、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第14号 (pp.15-31)
6. 「いわゆる「同時制作法」に対する批判的考察」, 共著、平成24年8月、日本コラーージュ療法学会 コラーージュ療法学研究3(1)(pp.69-78)
7. Letter to Editor 「入江氏レターに対するコメント」, 単著、平成24年9月、日本芸術療法学会誌2011, 42(1) (pp.102-104)
8. 「臨床心理士の国家資格を考える 現代日本における「素人による精神分析の問題」」, 単著、平成24年10月、日本遊戯療法学会 遊戯療法学研究第11巻1号(pp.136-149)
9. 「心理学諸学会連合理事会に向けてのカリキュラム案についての意見」, 単著、平成24年10月、日本遊戯療法学会 遊戯療法学研究第11巻1号(pp.154-157)
10. 「『コラーージュ療法』(杉浦京子 1994 川島書店)における不適切な記述について」, 共著、平成26年3月、共著者：西村喜文・服部令子、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第16号(pp.25-35)
11. 「コラーージュ療法の間違いはどのようにして広がったのか 対談「徳田良仁・杉浦京子」(1997)をもとにそのトリックを考える」, 共著、平成26年3月、共著者：服部令子、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第16号 (pp.37-63)
12. 「星と波テストの正しい取扱いについて 学生にどう教えるか」, 共著、平成26年3月、共著者：小野瑠美子、京都文教大学心理臨床センター 臨床心理研究第16号 (pp.65-98)

(学会報告、学会活動)

1. 事例シンポジウム、共同、平成21年6月、第32回日本内観学会奈良大会、奈良市ならまちセンター
2. 平成21年度研修講座「学校運営のためのメンタルヘルス講座」, 単独、平成21年6月、京都府総合教育センター
3. 基調講演「日本コラーージュ療法学会創設にあたって」, 単独、平成21年8月、日本コラーージュ療法学会第1回大会、キャンパスプラザ京都
4. シンポジウム「青年期広汎性発達障害とコラーージュ療法」, 共同、平成21年8月、共同発表者：山上榮子・服部令子・西村喜文、日本コラーージュ療法学会第1回大会、キャンパスプラザ京都
5. 職能委員会企画シンポジウム「自殺対策に対する本学会の取り組みを考える(3) 国全体のメンタルヘルスの進め方をめぐって」, 共同、平成21年9月、共同発表者：霜山孝子・加藤久喜・森崎美奈子・富田拓郎・信田さよ子、日本心理臨床学会第28回秋季大会、東京国際フォーラム(発表論文集p.17)
6. 「自殺対策に対する本学会の取り組みを考える(4) 他職種との連携を視野に入れながら」, 共同、平成22年9月 第29回日本心理臨床学会、東北大学
7. 小講義「カウンセリング入門 コラーージュ療法を活かして」, 単独、平成22年11月、第48回全国学生相談研修会、東京国際フォーラム
8. ワークショップ「コラーージュ療法入門」, 単独、平成23年8月、日本コラーージュ療法学会第3回大会、長崎大学医学部
9. シンポジウム「子どものコラーージュ療法 児童養護施設での実践」(シンポジスト) 平成23年8月、他のシンポジスト：津上佳奈美・大前玲子・西村喜文・今村友木子、日本コラーージュ療法学会第3回大会、長崎大学医学部

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/6)

(学会報告、学会活動 つづき)

10. 指定討論：岡田敦「コラージュ表現における「構成」とは何か 統合失調症者の回復過程を通して」、平成23年8月、日本コラージュ療法学会第3回大会、長崎大学医学部
11. 「職能委員会企画シンポジウム「自殺対策に対する本学会の取り組みを考える(5) 自殺対策基本法制定から5年目の現在」、共同、平成23年9月、日本心理臨床学会第30回大会、福岡国際会議場
12. 職能委員会企画シンポジウム「自殺対策に対する本学会の取り組みを考える(6) 自殺予防に対する学会同士の連携に向けて」、共同、平成24年9月、日本心理臨床学会第31回大会、愛知学院大学
13. 「いわゆる「同時制作法」に対する批判的考察 「相互法」と「同時制作法」」、共同、平成24年12月、第44回日本芸術療法学会、創価大学 (発表抄録集p.39)
14. 日本遊戯療法学会第19回大会企画シンポジウム「遊戯療法家を育てるために」、共同、平成25年6月、日本遊戯療法学会第19回大会、京都文教大学
15. 「コラージュ療法」、単独、平成25年6月、日本臨床心理士会研修センター
16. Comparing Group Supervision Experience Between Beginner and Well-Experienced Clinical Psychologists in Japan.、共同、平成25年8月、Annual Convention of American Psychological Association 2013, Honolulu, Hawaii, p.292 (Poster Session 2173)
17. ワークショップ「コラージュ療法」、単独、平成25年9月、日本描画テスト・描画療法学会大会、奈良県新公会堂
18. ワークショップ「コラージュ療法の基礎理論」、単独、平成25年10月、日本コラージュ療法学会第5回大会、新潟清陵大学
19. 基調講演「コラージュ療法の実践と今後の課題」、単独、平成25年10月、日本コラージュ療法学会第5回大会、新潟清陵大学
20. 公開講演「科学史に照らした心理学の位置 2段階発達説」、単独、平成25年10月、日本理論心理学会第59回大会、京都文教大学
21. 公開シンポジウム「心理学教育におけるカリキュラムの在り方について その心理学的考察」、共同、平成25年10月、日本理論心理学会第59回大会、京都文教大学
22. 「コラージュ療法」、単独、平成25年11月、日本臨床心理士会研修センター
23. 「コラージュ療法の誤解された普及過程において芸術療法学会の果たした役割」、共同、平成25年11月、第45回日本芸術療法学会、金沢医科大学 (プログラム・抄録集p.25)

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

書評：

1. 加藤大樹著『ブロックとコラージュの臨床心理学 体験過程と表現特徴』、単著、平成24年8月、日本コラージュ療法学会 コラージュ療法学研究3(1) (pp.110-112)

巻頭言：

1. 「コラージュ療法学研究誌の創刊に当たって コラージュ療法の再出発へ向けて」、単著、平成22年8月、日本コラージュ療法学会コラージュ療法学研究1(1)(p.1)
2. 「遊戯療法のはじまり」、単著、平成24年10月、日本遊戯療法学会 遊戯療法学研究第11巻1号 (pp.1-2)

エッセイ：

1. 「日本コラージュ療法学会創設にあたって」、単著、平成21年8月、「日本コラージュ療法学会」設立趣意書、日本コラージュ療法学会ニュースレター第1号 (pp.1-2)
2. 「学会の印象(日本遊戯療法学会第15回大会)」、単著、平成21年12月、金剛出版、精神療法第35巻第6号 (p.825)
3. 「もっとも遅れてきた学問『臨床心理学』 近代科学誕生から400年について思う」、単著、平成22年3月、京都精神保健福祉協会 めんたるへるす京都第38号 (p.1)
4. 「日本心理臨床学会「倫理公告」に添えて 許されない研究上の不正」、共著、平成22年4月、日本コラージュ療法学会ニュースレター2(pp.2-3)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/6)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき)</p> <p>5. 「青年期広汎性発達障害とコラージュ療法 日本コラージュ療法学会第1回大会シンポジウム」, 共同、平成22年8月、コラージュ療法学研究1(1) (pp.90-101)</p> <p>6. 「内観療法事例へのコメントと私の工夫した九分割統合絵画法」, 単著、平成22年9月、日本内観学会 内観研究第16巻第1号 (pp.25-27)</p> <p>7. 「職能委員会報告」, 単著、平成22年12月、日本心理臨床学会ニューズレター第1号 (p.3)</p> <p>8. 「カウンセリング入門 コラージュ療法を活かして」, 単著、平成23年3月、第48回全国学生相談研修会 (於: 東京国際フォーラム) 報告書 (pp.52-53)</p> <p>9. 「こんにちは研究室68 コラージュ療法で対話」, 平成23年9月、京都新聞朝刊</p> <p>その他:</p> <p>1. 「大会長「ご挨拶」」, 単独、平成25年6月、日本遊戯療法学会第19回大会プログラム・抄録集 (p.1)</p> <p>2. 「教育現場におけるコラージュの理解と活用 第4回コラージュ療法学会大会シンポジウム」, 共同、平成25年9月、コラージュ療法学研究4(1) (pp.61-72)</p> <p>3. 「指定討論「生徒指導における無意識の発見」」, 単独、平成25年9月、コラージュ療法学研究4(1) (pp.70-71)</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>平成11年 7月 心理臨床センター運営委員「平24.3まで」</p> <p>平成12年 4月 大学運営会議委員「平24.3まで」 大学予算委員「平22.3まで」 自己点検・評価委員「平24.3まで」 危機管理委員会委員「平24.3まで」</p> <p>平成16年 4月 大学教学会議委員「平24.3まで」 自己点検・大学院委員会委員「平24.3まで」</p> <p>平成17年 4月 京都文教大学臨床心理学研究科長「平24.3まで」</p> <p>平成22年 4月 産業メンタルヘルス研究所運営委員会委員「現在に至る」</p> <p>平成23年 4月 キャンパス・ハラスメント防止対策委員会委員「平24.3まで」</p> <p>平成24年 4月 京都文教大学大学院入試委員「平26.3まで」</p> <p>平成25年 4月 就業力育成支援委員会委員「平26.3まで」</p>
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の社会における活動	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)</p> <p>平成19年 5月 京都府自殺対策連絡協議会委員「平22.4まで」</p>
	<p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成25年 5月 京都文教高等学校ALP「臨床心理学とは」, 於: 同校</p> <p>(その他)</p> <p>平成 5年 9月 日本産業精神保健学会理事「現在に至る」</p> <p>平成13年 7月 京都文教コラージュ療法研究会創設主宰「現在に至る」</p> <p>平成15年 6月 日本芸術療法学会理事「現在に至る」</p> <p>平成17年 6月 日本心理学諸学会連合理事「平24.5まで」</p> <p>平成17年 7月 日本遊戯療法学会常任理事「現在に至る」</p> <p>平成18年 5月 京都府臨床心理士会会長「平22.5まで」</p> <p>平成20年 3月 日本箱庭療法学会理事「現在に至る」</p> <p>平成20年12月 日本コラージュ療法学会理事長「現在に至る」</p> <p>平成21年 4月 日本心理臨床学会業務執行理事「平24.3まで」</p> <p>平成22年 4月 日本学生相談学会理事「平25.3まで」</p> <p>平成25年 6月 日本遊戯療法学会第19回大会長</p> <p>平成25年10月 日本理論心理学会第59回大会準備委員長</p>